

平成25年度第1回 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議 議事録

《日 時》

平成25年6月19日（水）14：30～17：00

《場 所》

梅小路公園内「緑の館」1階イベント室（京都市下京区観喜寺町56-3）

《出席者》

別紙参照

《議事録》

1 開会

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

ただ今より、平成25年度第1回下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議を開催させていただきます。本日の検討会議は、公開となっており、報道関係者席及び市民の皆様の傍聴席を設けているので、御了承願いたい。

それでは、会議の開催に当たって、谷口知弘座長より御挨拶をいただき、引き続き進行をお願いしたい。

2 座長挨拶

◆谷口座長

本日は足元の悪い中、またお忙しい中お集まりいただき、御礼申し上げます。

昨年度皆様と初めてお会いしたのは7月であったが、その際も雨が降ったのを覚えていらっしゃるだろうか。門川市長と山本下京区長の挨拶あたりまでは外の機嫌も良かったが、井筒氏の講演が始まった頃から空が真っ暗になり、大雨が降ったのを思い出す。あの時は、お天道さんに「悪巧みをするな」と脅されたのではと感じたものだが、今回は同じ雨でも空梅雨の中の恵みの雨であり、我々の検討会議も恵みをもたらす会議として認めてもらえたのではないかと、そんな風に思っているところである。

昨年は皆様と一緒にエリアをよく歩いた。現場をしっかりと見て現状を認識し、その中から課題と魅力を抽出・整理する、そんな1年であった。

ようやく今年度から、基本構想の素案づくりという「企て」を始めてまいりたいと思う。昨年度同様、皆様方がお持ちの知識・経験・ネットワークをフルにこの場に出していただき、次年度につながる構想の素案がつけられることを願っている。

今年度も御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

3 議事

（1）新任委員の紹介

◆谷口座長

それでは、ここから先は私が進行を務めさせていただきます。

まずは議事1「新任委員の紹介」である。人事異動等で一部の委員の方が交代されている。私の方から、名簿の順で代わられた方のお名前を御紹介するので、各自簡単な自己紹介をお願いしたい。最初に、大阪ガス株式会社 京都地区副支配人・コミュニティ室長の佐藤 尚巧（さとう なおよし）様に御挨拶いただきたい。

◆佐藤委員

京都在住で、下京区には93年から7年ほど住んでいたことがあり、公私ともに少しでも下京区西部活性化の取組に協力したいと考えている。本日は、よろしくお願い申し上げます。

◆谷口座長

続いて、京都市総合企画局 プロジェクト推進担当部長の中村 豊彦（なかむら とよひこ）様に御挨拶いただきたい。

◆中村委員

私がこの会議の委員となっているのは、事務局を代表しての立場からではないかと考えている。下京区西部エリアの活性化のためにどんな方策が必要かなど、先輩委員の皆様の議論に加えていただき、実りある会議にしていきたい。本日は、よろしくお願い申し上げます。

◆谷口座長

続いて、京都市中央卸売市場第一市場次長の高木 淳（たかぎ じゅん）様の代理としてお越しにいただいている、同業務課課長の里見 延雄（さとみ のぶお）様に御挨拶いただきたい。

◆京都市中央卸売市場第一市場 里見業務課長

本来は次長の高木が出席するところ、本日は市会の関係で都合がつかず、代理で私が出席させていただいている。私自身、市の下京区西部活性化ワーキング・グループ会議のコアメンバーでもある。現在、中央市場は非常に厳しい状態であるが、市場の活性化がエリア全体の活性化の牽引役にもなるのではないかと考えている。本日はよろしくお願い申し上げます。

◆谷口座長

続いて、公益財団法人京都市都市緑化協会 専務理事の藤井 俊志（ふじい しゅんじ）様に御挨拶いただきたい。

◆藤井委員

京都市建設局水と緑環境部担当部長であり、緑化協会に出向している。名簿での役職が専務理事となっているが、理事会・評議委員会が先日行われ、今月末頃に専務理事に就任予定である。緑化協会は梅小路公園の指定管理を担っている。本日はよろしくお願い申し上げます。

◆谷口座長

続いて、浄土真宗本願寺派(西本願寺) 寺務所内務室課長の三輪 亨（みわ とおる）様に御挨拶いただきたい。

◆三輪委員

この4月より、本検討会議に関連する西本願寺内の担当部署が、寺務所内務室に代わった。西本願寺に勤めて20年余りになるが、その周辺しか詳しくなく、どれだけ皆様のお力になれるか分からないが精一杯頑張りたい。また、昨年は大谷本廟に勤めており、東山の交通対策会議に出席していたので、その経験も活かしたい。本日はよろしくお願ひ申し上げる。

◆谷口座長

最後に、真宗大谷派（東本願寺）宗務所総務部出仕の畠山 真（はたけやま まこと）様の代理としてお越しいただいている、同総務部広報担当の加藤 真樹（かとう まさき）様に御挨拶いただきたい。

◆真宗大谷派（東本願寺）宗務所総務部広報担当 加藤氏

委員である宗務所総務部出仕の畠山の代理として出席させていただいている。昨年度も大半は私が検討会議に携わり、まち歩きに参加して、このエリアについて新たな発見をすることができた。今年度はそれをより深めていけるよう、皆様の御意見を色々と聴かせていただきたいと考えている。本日はよろしくお願ひ申し上げる。

◆谷口座長

紹介させていただいた新たなメンバーを迎え、今年度も喧々諤々と議論を進めて参りたい。なお、今回は、活発な御議論をいただくため、委員の皆様を4つのグループに分けて配席している。各議事について、まずはグループごとに御議論いただいてから全体で共有するという進め方をしていきたいと思う。

(2) 平成24年度を取組について

◆谷口座長

では、議事2「平成24年度を取組」について事務局から説明をお願いする。

— 事務局から、冊子に基づき説明 —

◆谷口座長

24年度を取組については、議事として挙げているが、「昨年度はこんなことを実施した」という御報告になるかと思う。また後で冊子を御覧になって、指摘事項等があれば、事務局にお伝えいただきたい。

(3) 平成25年度を取組の進め方について

(4) 下京区西部エリアの広報上の呼び名について

◆谷口座長

続いて、議事3「平成25年度を取組の進め方」について事務局から説明をお願いする。

— 事務局から、資料2及び資料3に基づき説明 —

◆谷口座長

事務局の提案は、昨年度の成果や各委員の御意見を踏まえ、下京区西部エリアをざっくりと「6つの資源」という形で整理して考えていこうというものである。

それでは、これからグループごとに、事務局から提案いただいた今年度の進め方や「6つの資源」の考え方について意見交換を行いたい。「6つの資源にこういう資源も加えたらどうか」「表現の仕方、例えば『レトロな商店街空間』はもう少し別の言い方ができないか」等々、自由に御意見を出し合っていたいただきたい。

今日出た意見をこの場で整理して合意形成するのは難しいと思うので、今回は、一旦皆様の意見を出していただく場としたい。

5～10分程度時間をとる。模造紙・マーカーを用意しているので、それらを活用しつつ意見交換し、後ほどグループ単位で意見をまとめて発表してほしい。

— 4つのグループ（A・B・C・D）で意見交換 —

◆谷口座長

議論が進んでいるところではあるが、議事4「下京区西部エリアの広報上の呼び名」についても併せて意見交換を行っていただきたい。

現在「下京区西部エリア」という言葉を使っているが、今後地域連携事業などで市民の方々に呼び掛けていくときに、もっと馴染みやすい呼び名が必要になってくるのではないかと思う。そこで、どんな名前がこのエリアを呼んでいったら良いかぜひ皆様の案をお出しいただきたい。

これから更に30分ほど時間をとらせていただく。一言ではなかなか言い表しにくいということであれば、「〇〇〇〇の下京△△△」など、キャッチコピーのような短文の形で良いかと思う。

広報上の呼び名についても、後ほどグループ単位で発表をお願いしたい。

— 4つのグループ（A・B・C・D）で意見交換 —

◆谷口座長

それでは、準備が整ったグループから発表をお願いしたい。

◆Cグループ（外池委員）

・25年度の進め方について

「6つの資源」をひとくくりにして取組を進めるのは無理があると思う。資源によってターゲットは違い、例えばKRPで観光客に対するアピールは難しいので、KRPに入居されている方々が商店街に行く方法等、まだ連携出来ていない部分を伸ばす取組は可能であるという意見が出た。

「誰に向かっての活性化なのか」ということを資源ごとに分けて考えるべきであり、また、6つの資源の連携の仕方も、対象者によって取組み方を考える必要があると思う。

・ 広報上の呼び名について

この広いエリアを一言で表すのは非常に難しいという意見が多かった。

今使っている「下京区西部エリア」という名前は、地元の方からすると違和感があるということである。特定の中心部分を定めて名称に用いるのが良いのではないかとということで、一つは梅小路公園の「梅小路」を使う案が出た。また、「朱雀大路」や「平安京の中心部分」といった要素を名称に入れ込んでどうかという意見もあった。

◆Bグループ（京都市産業観光局商業振興課 仲筋担当係長）

・ 25年度の進め方について

地域連携事業など、具体的な取組を進めていくのは賛成である。ただし、どんなことをするのかを早めに考えた方が良い。例えば情報発信は、どのような方法で行うのか、お金は誰が負担するのか等々を、早めに手間をかけて決めるべきである。マップをつくるなら、継続して使えるよう、メンテナンスについても考えて計画的に進めた方が良いという意見が出た。

また、将来構想とは何かという素朴な疑問が出た。構想をつくってどうなるのか、それによってこのエリアはどうなっていくのかということを確認にしなければ、何のために構想をつくるのかが分からないままになる。下京区西部エリア活性化の取組を何のためにやっているのか、いま一つ委員共通の認識ができていない状況にあるように思う。

25年度の取組の柱立てが資料に書いてあるが、毎回の会議で、この柱立てのどの部分を議論するのか、議論の内容が具体的にどういうアウトプットに繋がっていくのかということを示した方が良い。ただの意見の出し合いで終わるより、やるからには具体的なアウトプットを、という意見が多かった。

まずは各主体が自らの足元を固めて取り組むことが大切である。また、地域住民としての観点から、商店街に活性化してほしいという思いがある。近々、商店街と地元自治会の皆様が会議を行う予定であり、消費者である地域住民との対話を通じて商店街の活性化を考える取組をされるとのことである。そういった具体的な取組の成果も、この検討会議に結びつけていけると良い。

・ 広報上の呼び名について

観光客が必ず京都駅を通るので、「京の玄関」、「はじめの一步は下京区」、「京のはじまりは朱雀下京」というように、京都のはじまりがこのエリアだということを示すようなキャッチコピーはどうかという意見があった。その他、対象エリアが概ね西大路・烏丸・五条・八条の通りに囲まれた部分であることから「西烏五八（にしからごはち）」という名称案、「梅小路本願寺エリア」のようにエリアの位置を示すような名称案が出た。

◆Dグループ（山崎委員）

・ 25年度の進め方について

まず、「そもそも活性化とは何か」「何を目指すのか」という議論をこれまで行ったのかという意見が出た。「活性化の主役は誰か」を考えた時、やはり地域住民の心を動かすような取組をすることが大切であると思う。

資料の「24年度活動報告書」は、全ての意見を網羅しようと丁寧に作られているが、ある程度グルーピングが可能である。それを今後どう反映していくかというまとめがあると、今後のためになると思う。

回遊性の視点からは、「下京区西部エリア」というくくりで完結せず、エリア外の様々な場所とも連携することによって、更に下京区西部の活性化に繋がられるのではないかという意見が出た。そのためには、回遊性向上に向けたコース設定、あるいは水族館シャトルバスのような下京区西部に人を運ぶ便利なツールも含め、動線を今後どう考えていくのかがポイントになる。

商店街に関して言えば、エリア活性化の目的の一つとして、地元にお金を落とすことは非常に重要であり、商店街に観光客や市内の来訪者が流れていくような仕組みづくりが必要である。例えば、長岡京市の成功事例のように、商店街共通の目玉商品をつくって魅力を発信する取組などが考えられると思う。

角屋保存会の中川委員によると、今年は新撰組結成150年の年であり、8月半ばが記念の日にあたるということである。次の会議が7月に開かれれば、もっとその情報の発信ができるのではないかという意見があった。

新撰組については下京区西部のみならず、中京区や霊山歴史館なども頑張っているのので、エリアを越えた回遊性がやはり大切であると思う。

・ 広報上の呼び名について

梅小路公園に新たに整備される「すざくゆめ広場(仮称)」にちなんだ「下京区朱雀大路界限」といった意見や、「下京ラグーン」という意見が出た。

・ 角屋・新撰組についての補足(中川委員)

4月に新たに新撰組を記念した石碑を造るなど、新撰組ファンを呼び込もうと努力しているところである。資料を見ると、次回会議が8月上旬の開催予定となっているが、それでは遅い。ぜひ7月中に開催いただければと思う。

今年は、せっかくの「新撰組結成150年」の年である。なんとか活かして、下京区西部の活性化の役に立ちたいと思う。どうぞよろしく願い申し上げます。

◆ Aグループ(藤井委員)

・ 25年度の進め方について

エリアや名称を決めるのではなく、どんなことを行うのかという「やる内容」からもう一度考え直していく方法もあるという意見が出た。他グループでも指摘のあった「誰に向かっての活性化なのか」ということについては、2つの視点があると思う。まず1つは、地域住民の方がもっと誇りに思っこのエリアを活性化していくということ。もう1つは、水族館や梅小路公園があり、今後鉄道博物館も造られるので、やはり観光客を意識して活性化するということである。「6つの資源」を盛り上げていくには、この2つの視点のどちらか一方というのではなく、両方を見ていかないといけないと思う。

また、具体的な話として、このエリアは朝が魅力的であるという意見が出た。例えば、中央市場は早朝から動いている。本願寺は5時半開門、6時からお勤めが始まり、そこに結構人が集まるとのことである。また、梅小路公園も朝の散歩スポットになっている。こういった指摘は、なかなか新鮮な話題であった。

・ 広報上の呼び名について

梅小路公園が今後一層脚光を浴びることを考えれば、「梅小路エリア」という呼び名が良いのでは、という意見が出た。一方で、それでは対象エリア全体を表すものとは言いがたいという意見もあり、なかなかまとまらなかった。

◆谷口座長

各グループの発表を踏まえて、賛成・反対・質問等、個人としての御意見があれば、お聞かせ願いたい。

— 特に意見なし —

◆谷口座長

25年度の進め方については、「この構想のターゲットはいったい誰なのか」という問題提起があった。これに対して、Aグループからは、「住民、そして観光客を含めた来訪者である」という御提案があった。このあたりは、根本的にとても大事なところなので、しっかり詰めていく必要があると思う。

個人的には、住民・来訪者に加えて、働きに来る人も大切だと考えている。「『住んでよし、訪れてよし』のまちづくり」という言葉があるが、下京区西部には更に「働いてよし」を加えたい。下京は産業のエリアとしてもとても重要である。

広報上の呼び名については、どれくらい意見が出るだろうかと心配していたのだが、大きな方向性のアイディアは一定出たように思う。

一つには、下京区西部を代表する、特徴的なエリアの名前を引っ張ってくるということ。例として、「朱雀大路」あるいは「梅小路」という案が出た。もう一つには、この下京区西部エリアの機能、京都の中での位置付けという観点から考えるということ。これについては、「玄関口」や「旅をする始まりのエリア」というキーワードが挙げられた。

今日この場で新しい呼び名を決めるということではないが、「下京区西部エリア」という従来の呼び名については、皆様納得しておられるようではない、ということがまずは分かった。皆が愛着を持てる名称を、今後も検討していきたい。

(5) 地域連携事業について

◆谷口座長

先ほどの議論の中で、「具体的にこれから何をしていくのかということ、しっかり議論して決める必要がある」という御意見があったが、それは次の議事と関連する。活性化について机上で考えるだけでなく、具体的な取組として、今年度は「地域連携事業」の企画を実施していくこととしている。

それでは、議事の5「地域連携事業」について、事務局から説明をお願いします。

— 事務局から、資料4～資料6に基づき説明 —

◆谷口座長

今年度具体的に進めていく地域連携事業の計画骨子について、説明いただいた。現段階で、御質問等、個人としての意見があればお聞かせ願いたい。

◆高梨委員

この地域連携事業というものを、もう少し分かりやすく説明していただきたい。

角屋の保存のように御自身で色々主役になって事業を頑張ろうとしておられる方もいれば、そういった取組を周りで応援する立場の方もいると思う。先ほどのグループ内の議論で、マップについて「つくるのは良いが、メンテナンスしないと何の意味もない」という意見が出た。取組を継続するには、「自分が頑張るんだ」という意識を持って地域で活動している人・主役となる人を見つけることが先決。そこをはっきりさせないと、地域連携の取組はなかなか進められないのではないかと。検討会議の枠に留まるのではなく、もう少し何か良い工夫が必要であると感じている。

また、「何のための、誰のための活性化か」という議論もあった。観光客も視野に入れないといけないが、まずは地域にお住まいの方に受け入れてもらう、あるいは、地元で「自分たちが頑張っていくんだ」という機運がないと、なかなか継続は難しい。そういった基本的な哲学を共有した上で、「今年はこんなことをしよう」ということを示していただくと、分かりやすいと思う。事業を進める上で、プロジェクトチームの組織が大事なポイントになる。検討会議外の、他にも頑張っている地域の方をメンバーに加えても良いのではないかと。一方で、あまりに多くの人が入り過ぎると煩雑になるかもしれない。いずれにせよ、今年一年で終わってしまう話ではもったいないので、どうしたら継続して取り組んでいけるかということを考えながら、進めたい。

先ほど本願寺の方から、周りの商店街とどうやって付き合うかを課題としてお考えだと伺ったのだが、全体的にはやはり、エリアの中で色々な方とどう連携していくのかというところが肝要である。もともと「地域連携事業」は昨年度も実施しており、大学の協力を得て、検討会議でのワークショップを支えていただいた。また、当NPOもファシリテーターとして尽力させていただいた。その点から、龍谷大学などにお声掛けして、若い衆の知恵を出してもらうことも必要かと思う。

「人を回遊させるのはなかなか大変である」という意見が去年の議論の中であった。回遊先を魅力的にする事業を掘り起こすということも、もう少し考えていただきたい。地元の顔になって自分が動かしていこうという積極的な団体や企業、個人がたくさん出てくるようになるにはどうしたら良いか、また、その上で具体的にどんなことをするのか、そういう組み立てについて委員の皆様の御意見を伺っていただくと、意味のあることになるかと思う。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

京都市のワーキンググループ・コアメンバーでは、昨年度の検討会議の運営状況を踏まえて「地域連携事業」計画骨子（案）を検討した。この会議に参加されている皆様方がエリア活性化に向けてまず一歩踏み出すには、具体的にどんな取組から始めたら良いかという観点で、事業の骨格をつくらせていただいている。

高梨委員から貴重な御提案をいただいたのだが、地域で自主的に色々取り組まれている方とも連携・協力して盛り上げていくことは、事務局としても非常に大切なことだと考えているので、広がりを持たせて事業を展開していきたい。

一方で、時間や経費の問題もあるので、まずは可能なところから着手していく。組み立てとして、例えばマップ型印刷物といった全体に共通して使えるツールを設定しているが、今後それをどう更新・継続していくかということも検討していきたい。

せつかくの場なので、委員の皆様からたくさんの御意見をいただきたいと思う。

◆**谷口座長**

本件については事業委託すると伺っているが、事業者は決まっているのか。

◆**事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）**

選定はできている状態である。

◆**谷口座長**

了解した。この事業は役所が全てを実施するというのではなく、民間の知恵・技術・ネットワークも活用して展開するものである。また、委託された事業者が検討会議の預かり知らぬところで勝手に何かを行うようなことはなく、プロジェクトチームを組織し、そこが主体となって企画・実施する形をつくっていくという所がポイントである。

全体では話しにくい部分もあろうかと思う。高梨委員からの問題提起について、あるいは事務局からもぜひ皆様の御意見・御提案をいただきたいという話があったので、グループの中で忌憚のない御意見を出していただければと思う。

できれば批判というよりは、「ここが問題だからこのように改善してはどうか」というようなアイデアを出していただきたい。

では、15分程度時間をとるので、グループ内で御議論いただきたい。また後ほど、先の議事と同様に、グループ単位で発表をお願いしたい。

— 4つのグループ（A・B・C・D）で意見交換 —

◆**谷口座長**

それでは、準備が整ったグループから発表をお願いしたい。

◆**Dグループ（下京区役所地域力推進室 西山まちづくり推進課長）**

事業骨子案にマップの作成についての記載があり、ここから議論を始めた。当初は「気軽に参加できる取組なので、マップは良い」という意見が出ていたのだが、このエリアのマップは既にたくさん存在しており、行政だけでなく企業でもつくられている中で、本当に今必要なのかという意見もあった。

もしマップをつくるのであれば、既存のマップをまずは集めて分析することが必要であり、「どんなものを、どんな目的でつくったら良いか」を検討しながらマップを作成した方が良い。

また、行政が全てのお金を出す従来の方法ではなく、10万・20万部と発行部数を多くして、企業協賛を得やすくして民間活力を活かしながら、出来る限り少ない費用でのマップづくりが大切という意見があった。

回遊型連携事業については、「ウォーキング」について意見が集中した。新たな事業を立ち上げることも大事だが、企業や団体等で既に実施されている事業、例えば、年2回・1千人程度の観光客を集めて実施されているJR東海主催のウォーキングや、京都ツーデーウォーク等で、下京区西部エリアをルートとして歩いてもらうような、既存の民間事業を活用する連携が大切である。

また、「B級グルメ」に沢山の人が集まることから、「食べ歩き」の観点が大変であり、角屋保存会の中川委員からは、「新撰組だんご」をどこかで作っていただいて「食べ歩き」をしてもらうような仕掛けづくりが必要との意見が出た。

地域連携事業については、どのように地域の方に参画していただいたら良いか、具体的な結論までは出なかったものの、今後の課題であると捉えている。プロジェクトチームでそういった課題を検討し、地域の方と関わりながら事業がしっかりできる仕組みをつくっていく必要があるという意見が出た。

◆Bグループ（京都市産業観光局商業振興課 仲筋担当係長）

東本願寺の加藤氏から、これまで50年に1度の法要時に商店街と連携事業をしてきたが、その後の展開をどうしようか模索されている、という問題提起があった。このように、今現在、地域との連携をどうするべきかという課題が多々ある。事業が終わった後もそれぞれのプロジェクトを担う人材を育てていけるような仕組みが必要であり、現在のような枠組みをずっと残すのではなく、いずれは地域の方々が主体的にプロジェクトを進めていくような形をつくるのが大切ではないかという意見が出た。

地域連携事業とあるが、いったい誰と誰の連携なのか、ともすれば、行政と地域住民の連携というようになりがちだが、そうではなく、誰と誰がいったい連携するのか、それぞれの連携の在り方をきちんと考えていかないといけないという指摘もあった。事務局で「6つの資源」の連携を提示していただいているが、資源ごとの連携をもう一度しっかり掘り下げていく必要がある。この掘り下げについては、ただ単に新しいものをつくるだけではなく、Aグループからの提案「朝活（あさかつ）」のように、今ある魅力をきちんと捉えなおすことが大切であると思う。

また、企業の方の目線として、良いものがないと人は来ないし、実績づくりだけの事業では良いものはつくれないのではないかという意見があった。企業として参画する以上は、何を対象にしているのか、社会貢献として参画すればいいのか、その企業が立地するところの活性化を目的としているのかが明らかである必要があり、ターゲットが明確でないと「協力する・しない」の検討が社内的に難しいということであった。この点は、ネーミング、プロモーションの観点からも明確にしていく必要があると考えている。

◆Cグループ（外池委員）

前段で「誰の為に、何の為に、どこに向かっての活性化なのか」という話があったが、マップづくりや回遊型連携事業においても、その点をしっかり検証しなければならないと

いう意見が出た。

マップについては、Dグループの意見にもあったように、そこらじゅうで既存のものが出回っているので、どういう中身にするか事前の検討が大切であると思う。そして、つくからにはそれを使おうとする方にちゃんと届くようにする必要があり、闇雲にばら撒くのではなく、ウォーキングガイドで活用するなどしてはどうかという意見があった。

また、事業実施に当たっては、地元住民の方にも議論に加わっていただくことが大切である。PTAや婦人会を巻き込んだり、アルバイトとして地元の方を雇ったりするなど、何らかの形で地元に参加してもらう必要があると思う。

事業骨子案でキックオフを10月5、6日としているが、既存事業とどうすり合わせをしていくのか、単に「下京区西部」の冠をつけるだけでは弱いのではないかという意見もあった。

◆Aグループ（升本委員）

最初の話に戻ってしまうかもしれないが、プロジェクトを始めるに当たっては、「下京区西部エリアの活性化とは何か、何が目標で何を果実とし、いつまでにどうしたいのか」という戦略的な部分をはっきりさせる必要がある。マップづくりや回遊型連携事業というのは、それを達成するための戦術であって、まずは目標、理念、哲学をしっかりと決めておかないといけないと思う。

また、単年度だけの盛り上がりではなく、今後10年、20年、このエリアを本当に住み良く皆が誇りに思える地域にしていこうという長い意味での事業であるならば、つながり方というのは、人が賑やかに歩いて行くということだけではなく、「文化としてのつながり」もあると思う。私は水族館の者なので、生物多様性という点を中心においてみると、例えば、笹がなくなってしまうと祇園祭で使う本当の京都の笹で作られた「ちまき」もつくれなくなるように、京都の文化・歴史・伝統というものを生物多様性につなげることができる。そういった、このエリアにあるものを文化、あるいは他の切り口でつなぐことができないかという意見が出た。

マップについては、単なるエリアやポテンシャルの紹介に留まるのではなく、モデルコースのようなものが必要であると思う。「下京区西部エリアの歩き方」といったような、例えばフリーペーパーのような形で、様々なターゲットの方へ渡せるものをつくってはどうか。地元に住んでいる方々ならではのコアな情報も、観光客には楽しんで見ていただけるだろうし、フェイスブック等のSNSからそういった情報がどんどん広がれば、エリアの魅力を様々な人が再発見するというつながりができる。

いずれにせよ、まずは何を目標・果実とするのかをしっかりと固めないで、いくら色々な戦術を考えても、その年だけの賑やかしで終わってしまうのではと懸念している。

◆谷口座長

各グループの発表に対して御意見、御質問や追加で提案等があれば、お聞かせ願いたい。

◆高梨委員

皆様がおっしゃっていることはかなり共通する部分がある。

昨年から数えて2年、あるいは来年もあるかもしれないが、この検討会議の「人数×エネルギー×日数」をコンサルタント料として換算すれば、非常に高い値段になるはずである。折角なので、この2～3年の取組が終わった後に、その活動を誰かに引き継いでいくことをイメージしていく必要があるのではないか。それは地元の方や企業であったり、いわゆるまちづくり協議会といった形であったりするかもしれない。

先ほど、「活性化の何を目標とし、何を果実とするか」というお話があったが、「形」すなわち「プロジェクト」を残すのではなく、人がつないだものを継続的に考えていく「器」をつくることこそを目標にするべきである。これだけの人が一堂に会し時間を費やしているが、京都市がこれからずっと予算を割いてくれる保証はない。この検討会議で議論した結果を別の組織あるいは人につないでいくことも視野に入れながら、今年度の地域連携事業の取組を進められると良い。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

貴重な御意見をいただいたので、それらを踏まえた事務局案を改めてつくり、議論を進めていきたいと思う。

今回お示しした事業骨格案の基本となっているのは、昨年度の活動報告書である。報告書の中に「すぐできる事」という項目があり、情報発信、あるいは、ツアーイベントや学生との連携などが挙げられていたため、それらをヒントに、今年度最初の一步を踏み出す具体策として事務局の案をお示ししたものである。

恐らく先ほど御議論いただいたことの要点は、この事業の行く先、活性化の戦略というものが大事であって、単なるイベント・催しで終わらせてはだめだということであったかと思う。その点も十分踏まえながら、検討していく必要があると考えている。

◆谷口座長

この事業については、議論をする時間がありそうでないため、まずは早急にプロジェクトチームを立ち上げて動いていく必要がある。本日、皆様のお話を聞く中で、ここにいるメンバーはもちろん、いないメンバーにも担い手になれる人がいるのではないかと、ということで、「連携の担い手を育てることが大切」という意見がBグループから出た。これはとても大事なポイントであると思う。

加えて、ここにいるメンバーは評論家でもコンサルタントでもなく、当事者であるので、「行動する人」として動いていくことが大切であると考えている。事業者の方にとっては、社会貢献というよりは、自らの事業を発展させる一つの取組として、連携の試みに御参加いただけるとありがたい。

なお、先ほどから話題となっていた「何をゴールにするのか」については、まさに、今年度に将来構想＝ビジョンの素案をつくるということであるので、皆様と一緒に何を目指して我々は進むのか、担い手側・受け手側両方含め、何をターゲットにするのか、そのあたりをしっかりと議論していきたい。皆様にも今後、どういう人を対象に、誰が何を展開していくのかということをお提案いただきたいと思います。

(6) その他

◆谷口座長

では、議題の6へ移る。

その他の案件として今お聞きしているのは2件、京都市建設局の「梅小路公園再整備」関連の話題と、KRPが主催される「KRPウィーク」の御案内についてである。順番に説明をお願いする。

◆京都市建設局緑政課 的場梅小路公園再整備担当課長

— 梅小路公園に新たに整備する広場の名称募集について資料説明 —

◆鈴木委員

— KRP-WEEKについて資料説明 —

◆谷口座長

その他、何かお知らせ等があればどうぞ。

◆中川委員

8月13～18日のお盆の時期に角屋の臨時公開を行う。通常この時期は休館しているが、8月18日が新撰組拝命150周年にあたるため、特別に公開をさせていただく。

◆谷口座長

皆様、お盆は島原・角屋さんへぜひ足を運んでみてはいかがか。

それでは、私が預かった進行はこれで終わりとしてさせていただく。

本日が、今年度の取組のキックオフとなる。今年度は下京区西部活性化の将来構想の素案をつくっていくということなので、今後も活発な議論をお願いしたい。いただいた多くの疑問・課題については、我々自身で答えをつくっていききたいと思う。

それでは、進行を事務局へお返す。

4 閉会

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

第2回目の会議は、8月上旬の開催を予定している。会議の日程、場所が決まり次第、事務局から連絡するので、引き続き御協力をお願いしたい。また、プロジェクトチームの設置に向けても、メンバー等について検討を加えた上で、改めてお声掛けをさせていただく。

それでは、本日はこれで閉会とさせていただく。

平成25年度第1回 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議
出席者名簿

(五十音順, 敬称略)

	団体名	役職名	氏名
座長	コミュニティデザイン研究室 同志社大学大学院総合政策科学研究科	代表 客員教授	谷口 知弘
Aグループ	オリックス不動産(株)	京都水族館支配人	升本 忠宏
	京都市	下京区長	山本 耕治
	京都市中央卸売市場第一市場	業務課長	里見 延雄
	(公財)京都市都市緑化協会	専務理事	藤井 俊志
	浄土真宗本願寺派(西本願寺)	寺務所内務室課長	三輪 亨
Bグループ	大阪ガス(株)	京都地区副支配人, コミュニティ室長	佐藤 尚巧
	京都市	産業観光局商業振興課担当係長	仲筋 裕則
	(特活)京都・地球みらい機構	常務理事	高梨 日出夫
	自治連合会(七条自治連合会)	会長	西村 為彦
	真宗大谷派(東本願寺)	宗務所総務部広報担当	加藤 真樹
	西日本旅客鉄道(株)(JR西日本)	近畿統括本部京都支社総務企画課(地域共生)担当課長	平野 剛
Cグループ	梅小路活性化委員会	委員長	市村 勝
	京都市	建設局緑政課梅小路公園再整備担当課長	的場 靖史
	(公財)京都市景観・まちづくりセンター	事務局次長	齒黒 健夫
	京都商工会議所	産業振興部まちづくり推進担当課長	外池 順一
	京都府旅行業協同組合	理事長	山本 芳孝
	京都リサーチパーク(株)	営業部長	鈴川 和哉
Dグループ	京都市	下京区地域力推進室まちづくり推進課長	西山 圭児
	京都市	総合企画局プロジェクト推進担当部長	中村 豊彦
	(公社)京都市観光協会	事務局長	山崎 晶子
	京都駅ビル開発(株)	営業部企画課長	林 成人
	(公財)角屋保存会	理事長	中川 清生